島根県邑智郡美郷町「ミニトマト就農研修制度」　×　営農支援アプリ「フルベジナビ」vol.1

「持続可能で儲かる」農業の実現

島根県美郷町への移住×ゼロカーボン農業モデル就農研修制度

島根県の中央に位置する美郷町（みさとちょう）は、その名のとおり、緑豊かな山々と雄大な江の川に抱かれた、「美しい郷」です。そんな美郷町は移住と就農を同時にサポートする新たな取り組みとして「美郷町ミニトマト就農研修制度」を２０２５年から開始しました。１期生も集まり、現在は２期目を募集中＜2025 年 6 月～2025 年 12 月＞です。この研修制度ではミニトマトの島根型養液栽培を学ぶことができ、また「儲かる」と「環境負荷の低減」を両立する「魅力ある農業」を実施する「みさと型ゼロカーボン農業モデル」で移住と持続可能な就農を推進されています。

第１期研修生の皆様には、研修の一環として栽培の作業記録や勤怠管理に、弊社・持続未来株式会社が提供する「果菜類向け営農支援アプリ『フルベジナビ』」をご活用いただいております。
このご縁から、私たちは美郷町の就農制度を心から応援させていただいています。そこで今回、美郷町産業振興課の漆谷様、営農指導員の山本様、そして第１期研修生の皆様に制度の詳細や実際の取り組みについてインタビューさせていただきました。

第１回目となる今回は、美郷町が推進する「ミニトマト就農研修制度」と、地域独自の取り組みである「みさと型ゼロカーボン農業モデル」を中心にご紹介します。

🌱暮らし・環境・仕事を支える就農研修制度

美郷町も他の地域と同様に人口減少と農業従事者の高齢化が進む中、農業を支える人手が年々減少し、地域の過疎化が大きな課題となっています。こうした現状を踏まえ、美郷町では「環境にやさしい」「自然と共生する」「サステナブルな暮らし」を提供しながら、島根型養液栽培システムを活用した「魅力ある農業」の実現を目指し、移住と就農を一体的に支援する独自の就農研修制度を立ち上げました。

Q.研修制度の特徴について教えてください

美郷町産業振興課　漆谷さん

美郷町で定住、就農を希望される方が、地域おこし協力隊の制度（会計年度任用職員）を活用して原則２年間給与の支給や定住支援を受け、栽培技術や営農について研修施設で学ぶことができる制度です。「儲かる農業」＋「環境への配慮（ゼロカーボン）」＝「魅力ある農業」を美郷町の農業モデルと位置付けて、これに共感いただける方に就農研修にご参加いただきたいと思っています。

Q.島根型養液栽培モデルとは

営農指導員　山本さん

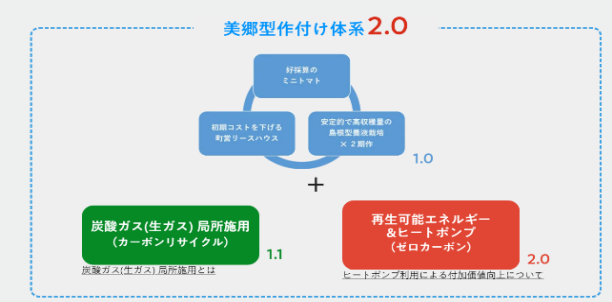
美郷町のゼロカーボン農業研修施設「みさとと。トレーニングファーム」（愛称:とまちぇり*）では、収益性の高いミニトマトの栽培を対象に、ソーラーパネルによる太陽光電力を活用したヒートポンプの導入や、カーボンリサイクルに資する生ガスによる炭酸ガスの局所利用など、環境負荷を抑える工夫を施した施設栽培を実践しています。

*とまちぇり(tomat ceri)・・・インドネシア語でミニトマトの意味

研修生には「島根型養液栽培方法」によるミニトマトの二期作体系を習得してもらいます。日射比例で潅水や液肥の濃度・量を自動調整できるため、省力化と安定した品質管理が可能となり、未経験者でも無理なく取り組むことができます。さらに、施設内の太陽光電力と統合環境制御によって必要なときに必要な分だけのエネルギーを使用するため、効率的で環境にもやさしい運用が実現されています。

養液栽培は、作物の切り替え準備が早く、最短 1 週間で次作へ移行可能です。片づけや土壌消毒の手間が不要で、私が営農指導を行ってきた過去 10 年間においては青枯病の発生が一度もなく、連作障害の心配もないことが大きな特徴です。

このように、本研修で学ぶ栽培モデルは、研修生にとっての労力的・技術的な負担を軽減しながら、環境への負荷も最小限に抑える、持続可能な農業の実践例となっています。



「移住したい」と「就農したい」のどちらも叶える制度

Q.美郷町の就農研修制度を選ばれた理由を教えてください。またその時にあった心配ごとはどうやって解消されましたか？

松浦馨さん・望さん（埼玉県・千葉県からご夫婦で移住）

左から皐月さん、松浦馨さん、望さん

馨さん：元々北海道で農業を学んでいましたが、就農するのであれば施設園芸にしたいと思い、色々探してみたところ、他の自治体と比べてもサポートが手厚く農業経営面でも現実性があると思い決めました。

心配だったことは、就農後のビジョンが見えるかどうかという部分でしたが、山本さんのような栽培に関して専門の指導員の方がいらっしゃったり、研修の中でも自分で考えながらやってみることができたので心配はありませんでした。

望さん：実際に美郷町を訪問してみて役所の方やみなさん温かく迎えてくださったこともよかったです。

皐月幹太さん（兵庫県からご家族で移住）

自然に囲まれたところで子育てしたいと思い移住先を探していたところ、親戚がいたこともありまず美郷町への移住を決めました。では仕事は何をしよう？と考えた時に、農業の選択肢を検討しました。

心配な点は２つありました。①仕事としての安定性があるかどうか？　②生産者として栽培技術が獲得できるかどうか？です。これらの点に対して就農後の経営モデルがあったり、隣町の農林大学校でも座学が受けられたり、栽培技術も普通は自分が獲得していくべきノウハウがモデル化されていてパッケージになっているので安心感があり、心配な２点がクリアになりました。

第２回ではアプリを使ってみた感想や新規就農の方々が営農支援アプリを使うことのメリットについてお話をお聞きします。

美郷町ミニトマト就農研修制度のお問合せ

美郷町役場　産業振興課　アグリ事業開発室

✉ zerocarbon@town.misato.shimane.jp

営農支援アプリ「フルベジナビ」のお問合せ

持続未来株式会社　みんなの情報システム部

✉ support@jizoku-mirai.com

美郷町ミニトマト就農研修制度　×　営農支援アプリ「フルベジナビ」vol.2

「持続可能で儲かる」魅力ある農業を実現へ

営農支援アプリの活用で効果的な労力配分を

美郷町「就農研修プログラム」の特徴についてご紹介した第１回に引き続き、第２回の今回は研修中にお試しいただいている営農支援アプリ「フルベジナビ」についてお尋ねした内容をご紹介します。

実際の作業時間を把握→次年度の作業計画や自分の労力の配分へ活用

Q.営農支援アプリ「フルベジナビ」を使ってみていかがですか？

皐月さん：　今は出退勤の記録と日々の作業の記録にアプリを使用しています。記録した作業項目がアプリのカレンダーに色付けされている所が見やすくていいですね。

Q.今後アプリをどのように活用されるでしょうか？

山本さん：作業時間の計測ができるところが良いと思います。

研修１年目だと、何の作業にどれくらい時間がかかっているか分からないので、それを明確にするのに役立ちます。そして、２年目は就農に向けて、１年目の作業時間を見ながら自分の労力をどのように配分すれば良いかを考えてもらえたらと思います。

> なるほど、新規就農の方にとっては作業時間がわかると自身の労働時間の配分を把握できたり、パートさんを雇うとなった時にもどのくらいの労力が必要か役に立ちますね。

松浦さん：今後は何の作業を何回やったかなど振り返りに活用したいです。

アプリの今後の追加機能について【持続未来　アプリサポートチーム】

フルベジナビでは農研機構の専門的な研究やデータを用いた WAGRI　API を各種機能に利用しています。研修が始まったばかりの皐月さん・松浦さんの営農データのデジタル化を継続的にサポートしながら、今後も WAGRI API を使った機能追加、操作しやすい、見やすいアプリ画面の改良を行っていきます。皐月さん・松浦さんや今後の２期生の方たちが大事な営農データを振り返りや分析に活用する事で、アプリが「美郷町の儲かる農業モデル」の実現に繋がればと思っています。

美郷町ミニトマト就農研修制度のお問合せ

美郷町役場　産業振興課　アグリ事業開発室

✉ zerocarbon@town.misato.shimane.jp

営農支援アプリ「フルベジナビ」のお問合せ

持続未来株式会社　みんなの情報システム部

✉ support@jizoku-mirai.com